

小菊の栽培

JAグループ和歌山農業振興センター 技術参与 本田 孝志

【はじめに】

小菊は花色が多く花もちも良いため、花屋や直売所で人気の高い切り花です。特にお盆や彼岸、さらにお正月には安定した需要があります。ここでは、小菊の露地栽培について簡単に紹介します。

【作型と品種】

図1は小菊の主な作型を示したものです。4月下旬に定植すると、8月のお盆に切り花ができます。約1か月後の5月下旬に定植すると9月の彼岸頃が切り花時期となります。

12月に切り花を行うためには7月上旬に定植します。7月下旬に定植しても切り花長は十分確保できますが、夏の高温時期になるため、梅雨時期に定植するほうが、栽培管理がしやすいです。

8月から12月までに開花する小菊の花芽分化や発達は、日長と気温によって決まります。様々な品種を試作して開花時期を確認し、自分の地域でお盆や彼岸に開花する品種を選定するようにします。

【親株管理と育苗】

切り花後の株を移植して、親株にします。春になって気温が高くなると茎葉が伸長するので、茎の上部を摘心し長くなりすぎないように管理します。摘心後、約25日でさし芽ができるようになります。

挿し穂は長さ6～7cmに調整し、オキシベロン液剤などの発根剤処理をして挿し芽を行います。育苗箱にさし芽を行う場合は排水性の良い用土を用い、葉が少しふれあう程度の間隔にさし芽を行います。プラグ育苗の場合は128穴程度のトレーを用い、やや水持ちの良い用土を使用します。

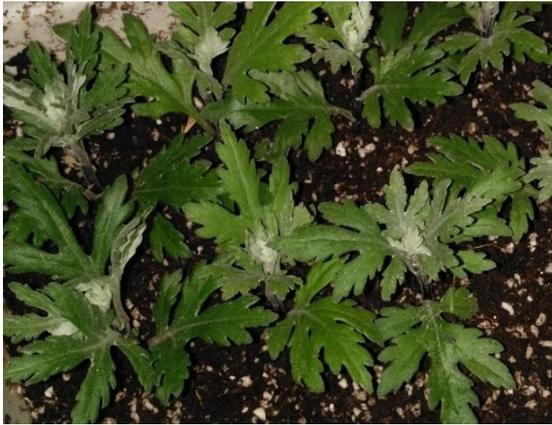
さし芽後は寒冷紗で遮光を行い、発根を促進します。さし芽後20日程度で定植できるようになります。

なお、8月咲きの場合は育苗を行わず、冬期に株基から発生した冬至芽を直接定植する方法もあります。この場合、冬の間株基に土寄せをして、発根を促進するようにしておきます。

図1 小菊の主な作型

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
8月咲き		▲ — ×	—————		■ ■				
9月咲き			▲ — ×	—————		■ ■			
12月咲き				▲ — ×	—————				■ ■

▲定植 ×摘心 ■切り花



育苗箱でのさし芽

【定植】

排水性の良い圃場に定植します。できるだけ連作しないようにしますが、連作の場合は土壌消毒を行うと生育が良くなります。石灰資材と基肥を施用した後、幅120～140cmの畝を立てます。

株間は15～20cm、2条植えとします。10アール当たりの8000株程度定植できます。

【栽培管理】

定植約2週間後に摘芯を行います。その後、側枝が多数発生するので、4～5本に整理します。

草丈が20～30cmになったころ追肥を行うとともに、除草を兼ねて土寄せをします。



さらに、2.5m間隔に支柱を立て、フラワーネットを一段張り、茎が曲がらないようにします。

【病害虫防除】

小菊には褐斑病や立ち枯れ病など様々な病気が発生しますが、最も注意が必要なのは「白さび病」です。特に長雨が続いたときなどは定期的に薬剤散布を行い防除に努めます。

害虫では、蕾を食害するオオタバコガや茎葉に発生するアブラムシなどがありますが、花卉に被害を与えるアザミウマには特に注意が必要です。

〈防除薬剤の例〉

- 白さび病・・・ジマンダイセン水和剤
ラリー乳剤
ストロビーフロアブル
- アザミウマ・・・モスピラン顆粒水溶剤
グレーシア乳剤

【切り花】

3分咲程度で切り花を行います。夏の高温時期は茎葉がしおれやすいので、朝夕の涼しいときに切り花し、すみやかに水揚げを行って、品質の良い切り花を行うように努めましょう。

